

知

恵



環

の

Chienowa
net

ねっと

Vol.52

2011年
11月20日発行

発行

環境ネットワーク・文京
〒113-0034 文京区湯島2-14-9URL <http://www.en-bunkyo.org>☎03-3837-1901 ☎03-3837-1901
■E-Mail sawatan@at.wakwak.com

千葉の里山から 文京の自然を考える



里山シンポジウム実行委員会事務局長

荒尾 稔



縁があって、10年来、千葉県内の各地の里山の再生活動を手伝っています。千葉県成田市近在の里山は、地形や生態系が文京区内ととても似ていると感じています。千葉県内の良く手入れされた里山では、キジ科の小経鶏(コジュケイ)が必ずといって良いほど生息し、生き物の種類もほとんど変わりないと思っています。地形的にも生息環境に共通点が多いからだと思います。

私も家族は、40数年前に本駒込・動坂下にある現在のマンションに越してきました。動坂下から上の大地には、神社やお寺、お屋敷も多く、林もあちこちにありました。何よりもコジュケイがたくさん生息していて「チョトコイ、チョットコイ」と聞こえる鳴き声がうるさいくらいでした。

生き物が消えゆく街

初春を過ぎると上空には、皇居内を繁殖地とするシラサギ類が無数に、ちょうど荒川筋の湿地帯で餌をとるためのルート下にあつて、動坂下の不忍通りを横切る形で、いつも20~30羽の群れがカギになり、サオになって飛んでいる姿が見られたものです。夕方から暗くなるとシラサギが皇居に戻って、代りにごつい姿のゴイサギに入れ代わり、ギャツという鳴き声は一晩中、夜空からの聞きなれた声でした。でも、コジュケイはいつの間にか姿を消し、サギやカモなどの飛来もなくなりました。

いま、不忍通りは14階建てマンションが通りに沿って壁のごとく連なっています。いつの間にか屋敷林が消え、空き地もなくなり、目に見えて生き物は減っています。スズメもツバメもどんどん減り、増えているのはカラスとヒヨドリなど雑食性で、ある面、攻撃野鳥たちばかりが目立ちます。最後に残ったアブラゼミなども減少の一途です。

近在にたくさん見られたアゲハチョウやモンシロチョウ、ヤマトシジミなどの可憐な蝶も、トンボ類もほとんど見ることができない、ある面で無味乾燥な街に変わってきています。今後さらにどう変わっていくのでしょうか。

文京区は、大きな敷地を持った武家屋敷や大名庭園だったところが多く、六義園や新江戸川公園、小石川植物園、小石川後樂園など山の手の台地上に池のある公園は、谷の湧水池を起源とするものが多いと思います。手が加わっていない分だけ、その箇所ではそれなりに生態系が保全されています。特に小石川植物園は、さすがきちんと保全されています。数年前、湧水地点の上流域で大規模マンション建築の話がありました。地下にある水脈を枯らしてしまうと下流域が一気に大きなダメージを生じる可能性が高く、その保全と管理には格段の配慮が必要となります。心しませぬか。

生態系の保全・再生を最優先に

明治以来、司馬遼太郎の著作「坂の上の雲」で語られるような、「青い空に輝く白い雲を追いかけ坂を上ること」に、残念ながら私も、すっかり取り込まれてしまっているようです。3.11の東日本大震災と原発災害に遭遇した私どもとしては、生き方を少しでも早く切り替え、まず、文京区の中の生態系が残されている箇所から、これ以上の生態系の崩壊を食い止めなければなりません。個々の小さいフィールド単位から、生き物を保全し再生できるような活動を、最優先で強化すべきと考えます。(環境ネットワーク・文京 会員)



千葉県いすみ市の素晴らしい里山景観

このページに掲載している情報の詳細は、区ホームページ「環境・ごみ」→「環境」注目情報に掲載していますのでご参照下さい。※申込書や申請書もダウンロードできます。

★..... 冬場の省エネ対策★

ウォームビズは暖房に必要なエネルギー使用量を削減することによって、CO2発生を抑制し地球温暖化防止に貢献することが目的です。近年の断熱性の高い建物では、暖房しなくても室温が20℃を超える建物もあります。ウォームビズでは室温20℃を呼びかけていますが、そのような建物については冷房してまで20℃にすることを求めているものではもちろんありません。暖房をつけずに済むのであればそれが望ましく、ウォームビズは過剰な暖房を抑制する呼びかけです。

ちょっとした工夫で実現できる“室温20℃”の知恵

①室内は適度な温度・湿度に設定する。

- 湿度によって体感温度は変わりますので、加湿器を置いて湿度を適正に保ちましょう。
- エアコンのフィルターは定期的に掃除し、暖房効率を上げましょう。

②あたたかい空気を逃さない工夫をする。

- 晴れの日にはカーテンを開けて太陽光を採り入れ、日が暮れ冷える前には閉めるなど、カーテンを上手に活用しましょう。
- 床まで届く厚手のカーテンで、冷気が足元から入り込むのを防ぎましょう。

③身に着ける物の工夫で体をあたためる。

- 外気にふれやすい首、手、足をマフラーや厚手の靴下などであたためましょう。

④飲食にも工夫して、体の中からあたためる。

- 朝食はしっかり食べてエネルギーを摂取し体をあたためましょう。
- 煮込み料理、汁もの、鍋料理など、みんな集まって食卓を囲むようにしましょう。

★..... 23年度 中学生環境保全ポスターコンクール★

平成23年10月に文京区中学生環境保全ポスターコンクールが開催され、入選作品が選出されました。その入選作品の展示会を開催します。

*** 優秀作品展 (金賞、銀賞、銅賞 (8作品))**

会場①：シビックセンター地下2階 ギャラリーモール
日時：12月1日(木)～12月7日(水) 7時30分～22時

会場②：シビックセンター1階 アートサロン
日時：12月8日(木)～12月10日(土) 9時～17時

- ※12月1日(木)、8日(木)は10時開始
- ※12月7日(水)、10日(土)は16時終了

*** 入選作品展 (金賞、銀賞、銅賞、佳作 (26作品))**

会場：シビックセンター地下2階 区民ひろば
日時：12月16日(金)～12月20日(火)

7時30分～22時

- ※12月16日(金)は17時30分開始
- ※12月20日(火)は16時終了

★..... 親子環境教室★

第4回『江戸の暮らしを見てみよう!』

- ◆募集期間：11月15日(火)～11月27日(日) 必着。
- ◆募集対象：区内在住・在学の小学生とその保護者
- ◆実施日時：12月3日(土) 10時～12時
- ◆会場：文京区教育センター(文京区春日1-9-21)
- ◆参加費：無料

◆内 容：

- ① 省エネ生活の江戸の暮らしを、タイムスリップして覗いてみましょう。
- ② 「竹とんぼ」をみんなで作って、飛ばしましょう!
- ◆定 員：22組 (超えた場合は抽選)

最近では巨大な風車を各地で見かけるようになりましたが、風力発電の特徴は、風のエネルギーの約40%を電気エネルギーに変換できる効率のよさで、風車の回転を発電機に伝えて発電するものです。回転軸が水平のプロペラ型と垂直のダリウス型の2タイプがあり、日本の発電能力はこの10年で40倍以上に伸びました。しかし、2010年の導入量は世界全体の約1.2%、国別では13位、首位の中国の1/18に不足し低迷しています。

風力発電は原子力や太陽光に比べて環境負荷が低く、設備が低コストで導入できることが利点です。しかし、欠点としてエネルギー密度が小さいこと、風速による電力の変動が大きいこと、また、景観がそこなわれたり、風車の羽に鳥などが衝突したり、風切り音による騒音問題、「回らない風車裁判(つくば市)」なども発生しています。

日本で最も成功している例には、遠州の空っ風が吹く静岡県磐田市の天竜川河口にある約400万kWh/年の発電能力を有する“竜洋しおさい風力発電所”があげられます。しかし、一般に日本は年間安定した風が吹く欧州などに比べ立地条件などに恵まれていません。現在、洋上発電や電力変動の影響の問題点を解決するため、蓄電池を併設して風が弱いときに放電して不足分を補い、安定した電力を送電網に流す方策の導入などが検討されています。

(東洋大学経済学部教授 鈴木孝弘)

2010年の風力発電新設容量(GWECのデータ)

1.	中国	1660	万kW
2.	米国	511.5	
3.	インド	213.9	
4.	スペイン	151.6	
5.	ドイツ	149.3	
...
18.	日本	22.1	

湯島小でゴーヤカーテンづくり

跡見学園女子大学・エコキャンパス研究会

跡見学園女子大学エコキャンパス研究会が参加した「みどりといきものつながり」イベントは、環境ネットワーク・文京が今回の大震災の前から企画していたもので、文京区立湯島小学校の生徒(4年生)を対象とし、小学生の環境への興味を身近に感じてもらうのが目的です。生徒には、全4回の授業の中でゴーヤを植えることから時間を追って経過を観察することによって、緑の大切さや生き物とのつながりを感じてもらえるように企画されました。



第1回目(4/25)にポットに植えたゴーヤの種が2週間で10cmに成長したので、第2回目(5/9)にこれを花壇に植え替えました。ここから先がグリーンカーテンの本格的な第一段階です。さらに、ゴーヤ以外の植物も植えました。生徒たちは実際に植

物の葉を触って観察し、小さな発見を重ねていきました。第3回(5/30)から約2カ月間に、カーテンには程遠かった植物たちが、気がつく学校3階のベランダまで到達するまでに成長していました。第4回(8/3)では成長したゴーヤの実の観察をしました。そして、カーテンの内側と外側の気温に大きな差を体感し、計測したところ低くなっていました。

小学生たちは実際にグリーンカーテン作りに参加する中で生き物に関心を持ち、質問・発言をし、自分で理解しようとする積極的な姿勢が現れてきました。それに刺激されるように、サポートとしてイベントに参加した私たち学生も、環境に対する意識を高めることができ、とても意義のある体験でした。(マネジメント学部2年 石橋詩織)

★「子どもの広場」で大活躍★文京学院大のインターンシップ生★

私たちは9月17日、「牛乳パックが変身!?!」というタイトルで「みんな集まれ! 子どもの広場」の企画を行いました。牛乳パックを再利用しておもちゃを作るという内容で、普段身近にあるものを別のものに生まれ変わらせる、リサイクルを目的としたイベントです。当日までは牛乳パックなどを集めて自分たちで試作をし、詳しい解説の準備をしました。また、子どもたちが安全に作業できるように作品と材料を変更したりしました。

参加した子どもたちは興味津々に話を聞いて、牛乳パックの特性である紙の硬さに苦戦しながらも切り貼りしながら作業を進めていました。最初は慣れなかった作業も次第に上手になり、私たちの手伝いなしに率先

して作っていきました。最後は出来上がった作品でみんなで楽しそうに遊んでいました。

★★★★★

★付き添いのご家族にとっても協力していただきました。家庭でも作品で遊んだり、また工作をしてくれたら嬉しく思います。

(松尾茉依・外国語学部2年)

★最初は不安もありましたが、参加者全員が意欲的に楽しんでくれたので良かったです。活動を通して成長できた気がします。

(三浦彩・外国語学部2年)

★子どもたちと触れ合う機会があまりなかったので、イベントで経験したことは、自分にとって価値のあるものになりました。

(鶴澤千夏・外国語学部3年)

★たくさんの方が参加し、私たちの説明を一生懸命に聞いて親子で協力していた姿は、すごく印象的でやりがいがありました。

(村田早織・外国語学部3年)



「子どもの広場」を企画した文京学院大学の学生たち

編集 雑感

〇…文京区は武蔵野台地の東端にあって、茗荷谷や動坂など谷や坂のつく地名が多いことでも知られています。かつては、森や林と調和を保ちながら、人々が生活を営む「里山」が点在していたことがうかがえます。

〇…今年の締め括りとして環境ネットワーク・文京の会員の二氏に健筆を振るっていただきました。一年間、ご愛読ありがとうございました。(花)